

2)良質秋まき小麦優良品種候補「北見61号」

北見農業試験場 小麦科

1.はじめに

現在、北海道の小麦作付面積は約13万haに達し、稲転地帯や小麦の生産不安定地帯にも作付拡大がはかられている。また、実需者からの良品質小麦の生産の要望¹⁾が強まっている中で、北見、十勝、道北、道央の各地帯毎の安定生産と品質向上を実現するためにはそれぞれの地域に適応する複敏の品種による対応が必要となっている。

2.育成経過

北見61号は、雪腐病・うどんこ病抵抗性と製粉適性にすぐれる北系920²⁾を母とし、良質、強稈、多収の北見42号(後のチホクコムギ)を父として人工交配を行い、その後選抜固定を図ってきたものである。

3.特性概要

北見61号は、秋播き型で成熟期はチホクコムギと同等の中生種である。耐倒伏性はチホクコムギ、ホロシリコムギより劣る。耐寒性、赤さび病はチホクコムギと同程度に強い。耐雪性はホロシリコムギより弱い。チホクコムギよりも強い。うどんこ病、穂発芽性はチホクコムギより強い。千粒重リットル重はチホクコムギより重く、子実収量はやや多収である。

品質特性では製粉性が良く、製めん適性においても、粉色が明るい苗色味を有するため、ゆでめんの色調の評価が高く、総合評価でもチホクコムギよりやや優る。

4.普及態度

上川支庁管内の雪腐病の危険が比較的少ない地域において収量、品質が不安定なチホクコムギを本系統に置き換えるとともに、製めん適性の劣るホロシリコムギを全面的に置き換える。本系統の栽培にあたっては耐倒伏性がやや劣るので北海道施肥標準を守り、多肥栽培は避ける。

1)最近の海外からの製品、調整品の輸入増大など流通事情が大変厳しいので、オーストラリア産のASW並以上の良質品種の育成を要望する。

2)北系920 ; Stadler/北見23号(ホロシリコムギ)//Turkish Amberの後代から得られた、北見農試育成系統。

表1 「北見61号」の育成地における特性概要(昭和60～63年の平均)

系統名または品種名	出穂期(月日)	成熟期(月日)	稈長(cm)	穂長(cm)	穂数(本/m ²)	子実重(kg/a)	同対標比(%)	粒重(g)	千粒重(g)	外観品質
北見61号	6.17	8.2	96	9.0	762	68.1	105	788	37.5	上下
チホクコムギ	6.18	8.1	99	7.6	808	64.6	100	764	36.7	上下
ホロシリコムギ	6.17	8.3	104	9.3	639	63.8	99	784	44.2	上下

表2 「北見61号」の各種障害抵抗性検定試験結果

系統名または品種名	耐寒性	耐雪性(雪腐小粒菌核病)	赤さび病	うどんこ病	赤かび病	穂発芽性	耐倒伏性
北見61号	中	中	極強	やや強	やや弱	中	やや弱
チホクコムギ	中	やや弱	極強	中	やや弱	やや易	中
ホロシリコムギ	中	やや強	中	やや強	中	中	中
実施場所	北見	上川	中央	農研センター 北見	九州 十勝	十勝 北見	十勝 北見
試験年度(昭和)	59～63	58～63	58～63	62 59～63	62 59～63	59～63 59～63	59～63 59～63

表3 「北見61号」の加工適性検定試験結果

系統名 または 品種名	製粉歩留 (%)	ミリング スコア	原粒 蛋白含量 (%)	カラー バリュー	アミノグラム MV (BU)	めん試験(北見農試)			めん試験(道産小麦研究会)		
						色 (25)	粘弾性 (25)	合計 (100)	色 (25)	粘弾性 (25)	合計 (100)
北見61号	72.8	82.3	10.7	1.61	454	19	24.3	87.5	20.2	16.8	73.1
チホクコムギ	70.4	79.9	10.7	1.00	590	17.8	25	87.0	18.0	19.2	72.6
ホロシリコムギ	67.2	73.5	11.9	2.26	346	17	12.7	65.0	13.3	14.7	61.8

1) **ミリングスコア**：製粉歩留 + 35 - (ストレート粉灰分×50)。灰分の少ない粉が沢山採れるほどミリングスコアは高くなり、製粉適性が優れることを示す。製粉適性の代表値の1つ。

2) 製めん用に適当な原粒蛋白含量は10～11%である。

3) カラーバリューは粉の等級を表す数字で、小さいほど白くて粉色が良いことを示す。

北見61号の粉は黄色味が強いために、カラーバリューは必ずしも良くはないが、見た目には明るく冴えた色調を呈する。

[目次へ戻る](#)